

その8 忍びす神社に学ぶ

木林学

中川 典子

忍びす神社のひとつ、京都・祇園にある忍びす神社は、その地に鎮座して八百五十年。榮西禪師による建仁寺建にあたり「忍びす社」を守護神として祀り、明治に至るまで建仁寺と一体でした。つまり、明治になって「忍びす神社」(正式には惠美須神社)となったのです。

毎年、母とお参りする忍びす様のお誕生日である十日忍びすに、この社の独特の木遣いを感じていました。それは、柱目の美しさです。社殿は神社特有の破風造り、材料はすべて国産の檜です。ちなみに木材料界では国産の檜のことを通称「地檜」と言います。

忍びす神社のひとつ、京都・祇園にある忍びす神社は、その地に鎮座して八百五十年。榮西禪師による建仁寺建にあたり「忍びす社」を守護神として祀り、明治に至るまで建仁寺と一体でした。つまり、明治になって「忍びす神社」(正式には惠美須神社)となったのです。

毎年、母とお参りする忍びす様のお誕生日である十日忍びすに、この社の独特の木遣いを感じていました。それは、柱目の美しさです。社殿は神社特有の破風造り、材料はすべて国産の檜です。ちなみに木材料界では国産の檜のことを通称「地檜」と言います。

身近な神様と檜の自然

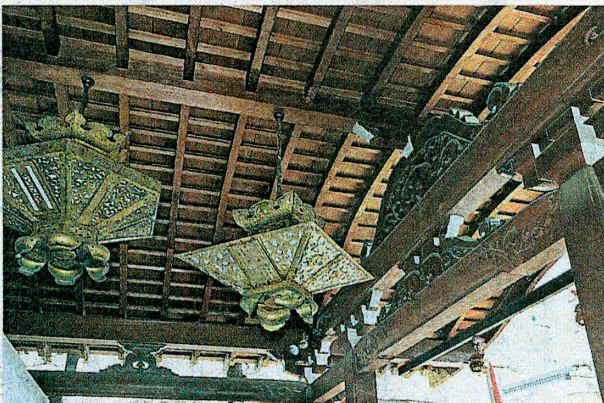
新年、あけましておめでとうございます。
今年も、木のある暮らしと木遣建築、木という素材にこだわりながら「木林学」にて楽しんでいきたいと存じます。「支援」「愛読をさせていただきます」
お正月三日も過ぎ、いよいよ初仕事。先行きの見えない世相に、今年こそ繁栄を願うのは、どなた様も変わらぬことと思います。大阪今宮神社、西宮神社と並び、日本三天天を欠かす、とお手入れも行き届く

格子はひし形にそろえられ、その柱目も均一です。堅く絞った水拭きを欠かす、とお手入れも行き届く

(自然)と共存する空間、それが忍びす神社なのだと思います。(銘木養育)



「十日忍びす」でたくさんのお参り者を迎える本殿 (京都市東山区・忍びす神社)



美しい曲線を描く本殿の天井



忍びす様の右手に持つ釣りざおからイメージし、古来よりめでたい縁起物の竹の葉、笹を忍びす様の象徴としたといわれる。吉兆笹をはじめ、宝船、福箕、熊手などの縁起物。絵馬の原画は名譽宮司が描く

十日忍びす大祭の日程 8日 招福祭 午後11時閉門 9日 宵忍びす祭 夜通し開門 10日 十日忍びす祭 夜通し開門 11日 残り福祭 午前零時閉門 12日 撤福祭 午後10時閉門

忍びす様の榎板 (町衆の信仰受け止めた年輪)



小さいころ、忍びす様にお参りする時、母から「掃き道に、榎板を叩きながら、あべっさんにお願した」と繰り返すんえと教えられました。以来トントン叩いています。

昔から習慣だったので、気にも留めていなかったのですが、やはり不思議な参拝法、なぜ叩くのでしょうか。中川宮司に伺いました。

あびす様は、大巫(高僧)で耳が不自由で、二の指居にかかっているあびす様の福箕に賽銭を投げ、上手に入ると願いが叶うという言い習わしもありました。ただし十日忍びすの期間中は安全確保のためお願してあり、見ることはできません。なぜ賽銭を投げるのかは謎のままのようです。

でもあびす様のほかからかさか、このような町衆の習俗が受け入れられ、浸透していったと思います。毎年、叩く榎板は少しずつ擦り減っていますが、町衆の信仰と重ねた年輪の年月、檜の生命力を私の手に感じる事ができます。

銘木養育は、たった一枚の榎板から教えられることが多いです。今年も榎板にとって佳き一年でありますように。



本殿に参拝後、多くの人が叩いてゆく榎板。忍びす神社だけの特別な参拝の作法